

# 本町駅(地下鉄御堂筋線・四つ橋線・中央線)① 御堂さんの鐘が聞こえる街を歩けば

堺筋本町駅(地下鉄堺筋線・中央線)

「大阪あそ歩マップ集」  
その3 No.124



## 地下鉄本町駅

かつて大坂の町衆は「御堂さん(北御堂・南御堂)の鐘が聞こえるところ(船場・本町)に店を持ちたい」と憧れました。その名残で、いまも本町駅周辺には竹中工務店、リそな銀行、日本ハム、クラボウ、ダイワボウといった大手企業の本社が集積しています。

## ①坐摩神社

神功皇后が現在の中央区石町付近に奉祀したのが始まりで、秀吉の大坂築城で現在地に遷座しました。坐摩神社は中世に武家として活躍した渡辺党の氏神で、日本全国の渡辺・渡邊・渡邊・渡部の姓の起源です。かつてはあたり一帯を渡辺町といいましたが、昭和63年(1988)に町名変更されそうになり、渡辺姓の末裔の「全国渡辺会」が反対運動を起こして「久太郎町4丁目渡辺」の地名で決着しました。



## ②陶器神社・織維神社

かつて坐摩神社には多くの物売りが門前に集まり、これは「坐摩の前の古手屋」と呼ばれました。この古手屋の中から「そご



う」が誕生し、また唐物町には陶器問屋が並びました。織維神社、陶器神社はその名残です。

## ③南御堂

正式には真宗大谷派難波別院といます。文禄4年(1595)に秀吉から寺地を寄進され、本願寺第12代・教如(1558~1614)が渡辺の地に大谷本願寺を建立。その後、慶長3年(1598)に現在地へ移転しました。正徳4年(1714)に幕府から大坂城の石垣を寄進され、現在でも敷地南側で石垣を見ることができます(黒く焦げた石は大阪空襲で焼けたものです)。

## ④芭蕉辞世の句碑

元禄7年(1694)に松尾芭蕉が大坂へやってきましたが、体調を崩して南御堂近くの花屋仁左衛門の貸座敷にて客死しました。南御堂には芭蕉の辞世句のひとつ「旅に病で ゆめは枯野を か

けまはる」を刻んだ句碑が建てられています。

## ⑤難波神社

反正天皇が父・仁徳天皇を祭神として創建したと伝えられます。文化8年(1811)に2世・植村文楽軒が「稻荷の芝居」を始め、そのことを記念する「稻荷社文楽座跡」の石碑があります。

## ⑥芭蕉終焉の地碑

芭蕉が客死した花屋仁左衛門の貸座敷跡です。

## ⑦船場センタービル

昭和45年(1970)完成。阪神高速(中央大通)の開通で立ち退きとなった唐物町、北久太郎町、農人橋詰町、両替町などの問屋街の移転先として設置されたものです。車社会に偏重していった大阪万博時代の象徴といえます。

地下鉄本町駅

